

邦楽爛漫 ～花鳥風月～

演目解説

舞楽「蘭陵王」

唐楽。左舞。走舞。
「教訓抄」によると、北齊の蘭陵王長恭は才知武勇にして形が美しかったので、兵が戦をせず將軍を見ようとばかりしていました。そこで、仮面を着して戦に臨んだところ、周の師を金墉城下に撃ち、勇は三軍に冠したのでこの舞を作りました。
また、脂那国の王が隣国と戦っている時に崩じ、その子が即位して戦ったが、争いは止みませんでした。太子は王の陵に向かって悲しんでいると、父王が神魂を飛ばして、暮れようとしている日をまねきました。ふたたび蒼天となり、合戦に勝利しました。世はこぞって歌舞し、没日還午樂と名付けました。

山田流箏曲「破れ案山子」 作詞 杉田嘉次 作曲 三世 萩岡松韻

昭和37年5月に作曲された、唄・箏(二部)・三絃(三部)・笛・打楽器による合奏曲です。歌詞は野沢凡兆(松尾芭蕉門人)の句「物の音ひとりたふるゝ案山子哉」に着想を得て作られたもので、二百十日も無事にすみ、豊年万作の喜びの中に一人立つ案山子が見た村の様子を、雨を描写した合の手や里神楽の囃子などを織り込んで表現しています。

尺八「第四風動」 作曲 杵屋正邦

揺るぎ乱れる心の様を、風のそよぎ、風の荒びになぞらえた「風動」の第4作目は、静謐と深奥への情懷が主題となっています。
ユニゾンで重々しく始まり、各パートの独奏部分が交互に現れます。それが次第に絡み合いつつ曲が進行します。雨だれのような音群の中を、低音による旋律があたかも風が吹き抜けるように通り過ぎます。一転して軽快に各パートが呼びあい、離れ、乱れながら曲は進みます。
そして、再び比較的長い独奏が続き、終わりとなります。

宝生流舞囃子「邯鄲」

人生に悩む青年盧生は、邯鄲の里で、不思議な『邯鄲の枕』を用いて一眠りします。
楚国の王位に就いた盧生に臣下が靈酒を捧げます。盧生は舞を見ながら、自らも喜びの舞を舞います。いつしか五十年の栄華もおわり、宮殿も臣下も、みな消え去ってしまいました。
目覚めると元の寢室。盧生は、栄華に満ちた日々も、所詮、一眠りの間の夢と同様にむなしいことなのだと悟るのでした。

長唄「喜撰」 作曲 十世 杵屋六左衛門

天保2年(1831)3月、江戸中村座で長唄・清元の掛合いで初演されました。古今集の序に記されている歌人達を題材とした「六歌仙容彩」という五変化舞踊の中の一曲で、平安時代の六人の歌人を俗化し、身近な存在として見せたところがねらいの作品です。願人坊主のチョコクレ、念仏踊、住吉踊等、当時の流行唄を取り入れながら、天保期の退廃的な風俗と生活を描き、洒落と粋の気分に満ちた明るい曲になっています。

台東区立浅草公会堂案内図

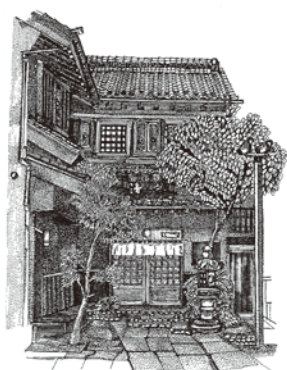


台東区立浅草公会堂
東京都台東区浅草1-38-6
会場には駐車場がございます。
お車は雷門地下駐車場
をご利用ください。
営業時間 7時～23時
30分毎 200円

雷門通り
そば處

尾張屋

本店
TEL (3845) 4500
支店
TEL (3841) 8780
<http://r.gnavi.co.jp/g615000/>



天麩羅中清
台東区浅草一ノ三九ノ一三
(浅草公会堂前)
電話(三三四)四〇一五(代)
<http://www.nakasei.biz/>



囃子が誘う、
夢幻の世界

この国の佳き伝統とともに
宮本卯之助

株式会社 宮本卯之助商店 創業文久元年 太鼓・神輿・祭礼具 製造販売
西浅草店 東京都台東区西浅草2-1-1 TEL 03-3844-2141 FAX 03-3842-6730
www.miyamoto-unosuke.co.jp